

複数ドメインで計測を行うための作業手順 (ウェブアンテナ版)

本資料では、「ウェブアンテナをご利用の方」と「ウェブアンテナとUSERGRAMを併用している方」を対象に、複数のドメインをまたいだChrome/Safari/Firefoxブラウザのアクセスを正しく計測するための作業手順をご案内します。

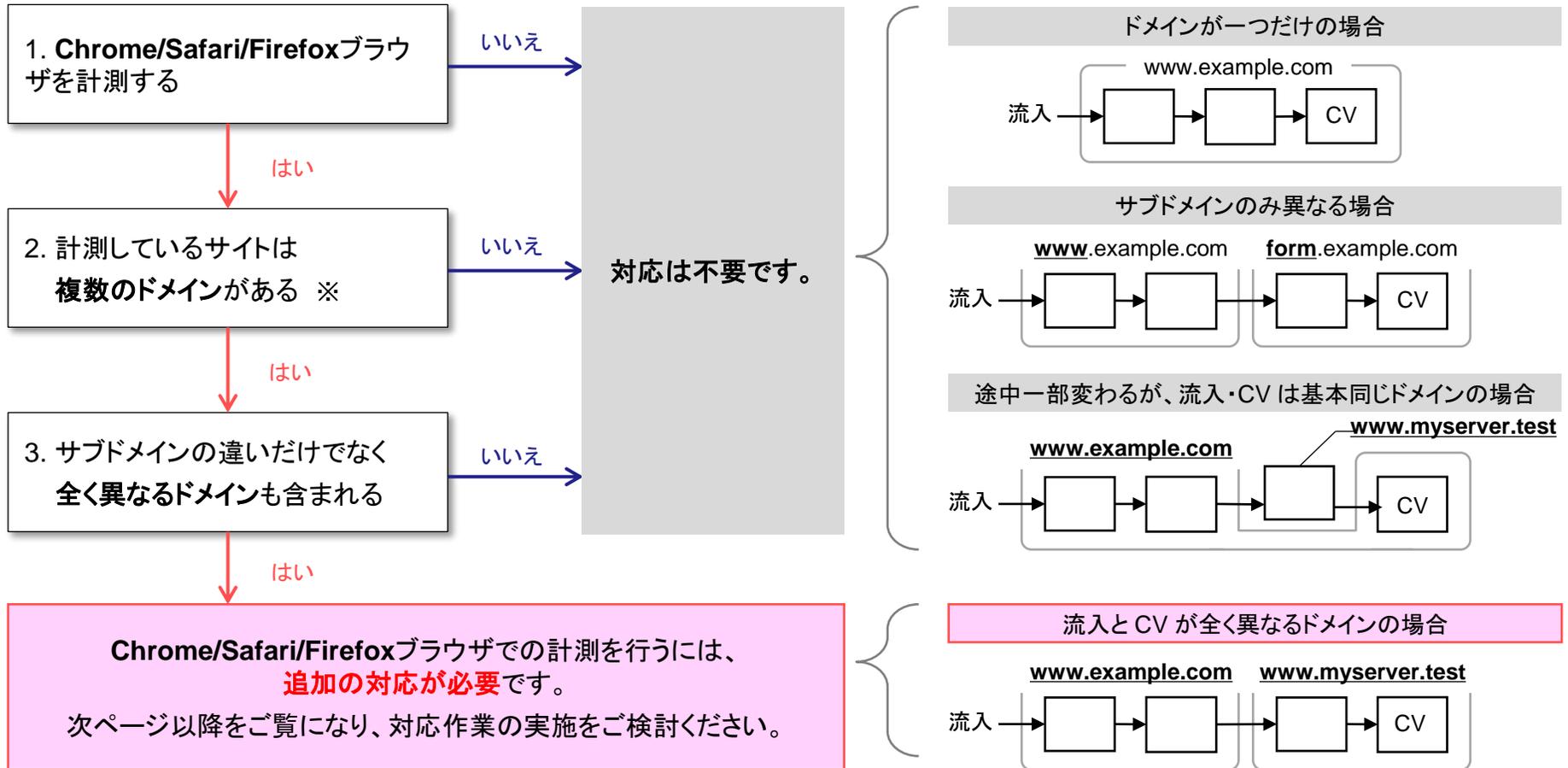
※「USERGRAMのみご利用の方」は、USERGRAM版の資料をご利用ください

目次

対応が必要なお客様	p.3
2種類の設定方法について	p.4
【設定方法1】リンクを直接書き換える	p.5
【設定方法2】Googleタグマネージャで一括設定する	p.13

対応が必要なお客様

サイトが複数のドメインで構成されており、流入ページと CVページ のドメインが全く異なる場合、Chrome/Safari/Firefoxブラウザでは、Cookieの取り扱いが他のブラウザと異なるため、通常のタグ設置作業だけではCVを正しく計測できません。追加の対応が必要な場合がありますので、まずは以下の表で対応要否をご確認ください。



※フォームに外部システムを利用している場合など、自社で所有する以外のドメインが存在する場合にも対応が必要です

2種類の設定方法について

Chrome/Safari/Firefoxブラウザを正しく計測するには、別ドメインへ遷移するリンクに対してデータ引き継ぎ処理を設定する必要があります。

設定方法には「HTMLソースのリンクを直接書き換える方法」と「タグマネージャで一括設定する方法」の2種類があります。

下記をご覧ください、いずれかの方法を選択してください。

【設定方法1】 リンクを直接書き換える → p.5 ~

リンクの遷移処理部分をHTMLソース上で直接書き換える方法です。

- a タグ以外のリンクや、特殊な処理が行われているリンクなど、幅広い実装に対応可能です
- △ リンクごとに書き換えを行う必要があります

【設定方法2】 Googleタグマネージャで一括設定する → p.13 ~

「Googleタグマネージャ(GTM)」でデータ引き継ぎ処理を一括設定する方法です。

- HTMLソースに手を入れることなく、タグマネージャ上の設定だけで作業が完了します
- △ 原則として a タグによる静的なリンクにしか適用されないため、下表で「×」になっているリンクは別途【設定方法1】による作業を実施する必要があります

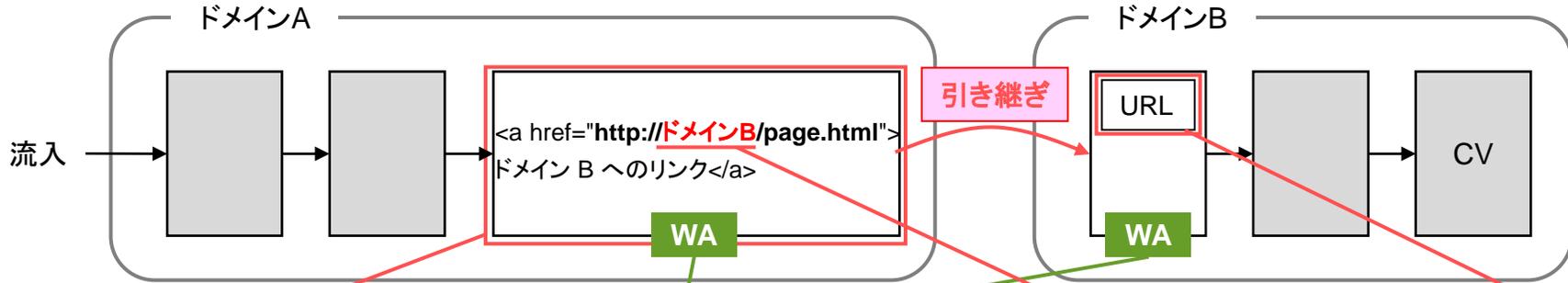
適用可能なリンクの種類	【設定方法1】 直接書き換え	【設定方法2】 タグマネージャ
a タグによる静的なリンク (href 属性にリンク先 URL が記述されているもの)	○	○
上記にユニバーサルアナリティクスのクロスドメイン処理 (ga関数) が行われているリンク	○	○
a タグ以外のリンク	○	×
特殊な処理 (JavaScriptによる遷移、リンク先の動的な書き換え等) が行われているリンク	○	×
旧Googleアナリティクスのクロスドメイン処理 (_gaq.push関数) が行われているリンク	○	×
iframe内のリンク	○	×
リンク処理の特定が困難、または外部システム利用等の事情で書き換え不能なリンク	×	×

【設定方法1】
リンクを直接書き換える

必要な作業の概要

別ドメインへ遷移するリンク部分に、データ引き継ぎ処理を記述いただく必要があります。
以下、4ステップに分けて作業手順をご説明します。

<CV までの遷移図>



1

別ドメインへの遷移箇所を洗い出す

- 流入から CV までの経路上で、別ドメインへと遷移する箇所を作業対象として洗い出す
- 全ての箇所の対応が難しい場合、特に重要な導線の途中にある遷移箇所を作業対象とする (推奨)

2

タグが設置されていることを確認する

- 遷移前(ドメインA)と遷移先(ドメインB)の両方のページにウェブアンテナの計測タグが埋まっていることを確認する
- 埋まっていない場合、遷移前・遷移先の両ページに計測タグを設置する

3

別ドメインへのリンクを書き換える

- (1)で洗い出した別ドメインへのリンクを書き換え、データ引き継ぎ用のパラメータが付与されるように設定する

4

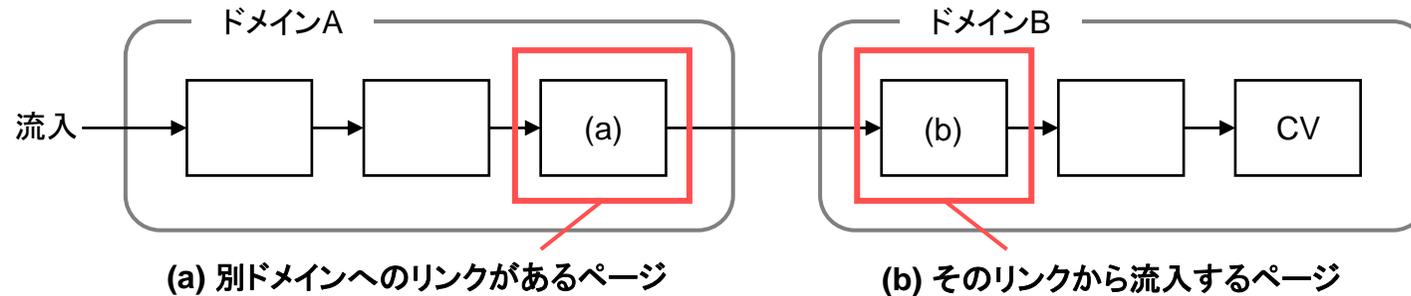
書き換え箇所の動作確認を行う

- 書き換え箇所のリンクを実際にクリックして、パラメータが正しく付与されることを確認する

具体的な作業の手順(1/6)

1 別ドメインへの遷移箇所を洗い出す

貴社サイトにて、下図のように流入から CV までに経由する「(a) 別ドメインへのリンクがあるページ」と、「(b) そのリンクから流入するページ」を洗い出してください。



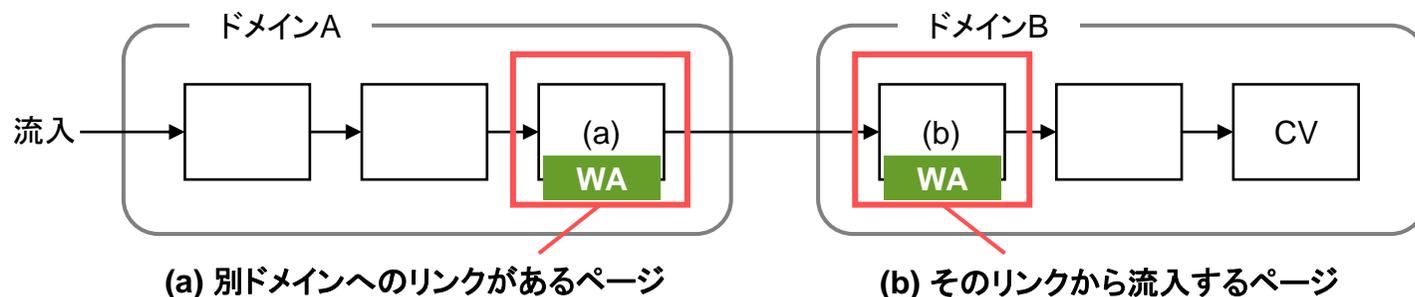
基本的には、該当する全てのページにて作業をして頂くのが理想的です。しかし数が多く現実的でない場合、ユーザーが主に経由していると思われる導線の部分のみ作業して頂く事を推奨します。

実際にどのページを対象とするかは、貴社サイト状況や作業の工数などを踏まえてご相談・ご検討ください。

具体的な作業の手順(2/6)

2 タグが設置されていることを確認する

(a) (b) 各ページにウェブアンテナの計測タグ(入口ページタグ/コンバージョンページタグ)が設置されていることをご確認ください。USERGRAMも併用している場合は、併せてUSERGRAMの計測タグの設置もご確認ください。



✓ 設置されている場合 ➡ **追加の対応は不要** です

✓ 設置されていない場合 ➡ ウェブアンテナの**入口ページタグ**を (a) (b) 各ページに設置してください

※ USERGRAM併用の場合は、USERGRAMの**共通タグ**を併せて設置してください

該当するページへの計測タグの設置が難しい場合、または計測の制約上設置を行っていない場合は、状況をお伺いした上で対応方法をご案内させていただきます。

お手数ですが、サポート窓口(p.37)までお問い合わせください。

具体的な作業の手順(3/6)

3 別ドメインへのリンクを書き換える

「(a) 別ドメインへのリンクがあるページ」上にある、別ドメインへ遷移するリンクを以下のように書き換えてください。これにより、該当リンクをクリックしたときに引き継ぎ用のパラメータが自動付与されるようになります。

<a> タグによる通常リンクの場合

タグの onclick 属性にて、リンク先 URL の書き換え処理を記述してください。

書き換え前

```
<a href="http://ドメインB/index.html">  
ドメインBへのリンク</a>
```



書き換え後

```
<a href="http://ドメインB/index.html" onclick="this.href=_wa.link(this.href)">  
ドメインBへのリンク</a>
```

※USERGRAM併用の場合は、赤字部分を下記の通り書き換えてください

```
onclick="this.href=_wa.link(this.href);this.href=usergram.link(this.href)"
```

<form> タグによるフォームの場合

フォームを送信する形の場合、onclick 属性ではなく、onsubmit 属性部分を以下の通り書き換えてください。

書き換え前

```
<form action="http://ドメインB/post/confirm"  
method="post">  
...  
</form>
```



書き換え後

```
<form action="http://ドメインB/post/confirm" method="post"  
onsubmit="this.action=_wa.link(this.action);">  
...  
</form>
```

※USERGRAM併用の場合は、赤字部分を下記の通り書き換えてください

```
onsubmit="this.action=_wa.link(this.action);this.action=usergram.link(this.action)"
```

具体的な作業の手順(4/6)

リンク部分に特殊な処理が行われている場合

別ドメインへのリンク部分に特殊な処理が施されている場合、実装にあわせて書き換え処理を記述し、リンク先 URL へ引き継ぎパラメータを付与して頂く必要があります。以下の書き換え例を参考に実装をご検討ください。

書き換え前

書き換え後

例1) 旧Googleアナリティクスのクロスドメイン処理(_gaq.push関数)と併用する場合

```
<a href="http://ドメインB/index.html"
onclick="_gaq.push(['_link', this.href]); return
false;">ここをクリック</a>
```



```
<a href="http://ドメインB/index.html" onclick="var url=_wa.link(this.href);
_gaq.push(['_link', url]); return false;">ここをクリック</a>
```

※USERGRAM併用の場合は、1行目の赤字部分を下記の通り書き換えてください
var url=_wa.link(this.href);url=usergram.link(url);

例2) window.open() でウィンドウを開く場合

```
<a href="http://ドメインB/index.html"
onclick="window.open(this.href); return
false;">ここをクリック</a>
```



```
<a href="http://ドメインB/index.html" onclick="var url=_wa.link(this.href);
window.open(url); return false;">ここをクリック</a>
```

※USERGRAM併用の場合は、1行目の赤字部分を下記の通り書き換えてください
var url=_wa.link(this.href);url=usergram.link(url);

例3) JavaScript 内のイベントハンドラから呼び出す場合

```
function onClick () {
  location.href = 'http://ドメインB/newpage.html';
}
```



```
function onClick () {
  try {
    var url = _wa.link('http://ドメインB/newpage.html');
  } catch(e) {
    var url = 'http://ドメインB/newpage.html';
  }
  location.href = url;
}
```

※USERGRAM併用の場合は、3行目と4行目の間に下記の1行を挿入してください
var url=usergram.link(url);

【ご注意】 タグの href 属性や action 属性は、作業後も残してください

JavaScript が無効な場合や、万が一ウェブアンテナのタグが読みこめなかった場合などに備え、実装後も href 属性や action 属性はそのまま残してください。削除してしまうと、ユーザが正常に遷移できない可能性があります。

書き換え前

```
<a href="http://ドメインB/index.html">  
クリックして B へ移動</a>
```



書き換え後

```
<a href="http://ドメインB/index.html"  
onclick="this.href=_wa.link(this.href)">  
クリックして B へ移動</a>
```



万が一タグが削除された場合でも、正常にページ遷移できます

書き換え前

```
<a href="http://ドメインB/index.html">  
クリックして B へ移動</a>
```



書き換え後

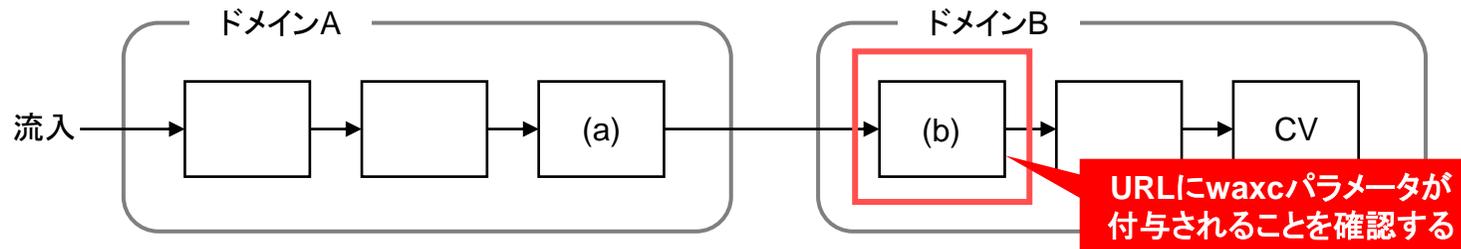
```
<a href="" onclick="this.href=_wa.link('http://ドメイン  
B/index.html');">  
クリックして B へ移動</a>
```



JavaScript がうまく動かず、ページ遷移できなくなる可能性があります

4 書き換え箇所の動作確認を行う

引き継ぎの設定を正しく行くと、Chrome/Safari/Firefox ブラウザからリンクをクリックした時に waxc というパラメータが自動付与されます。
引き継ぎ処理は上記ブラウザのみで動作しますので、それらのブラウザからリンクをクリックして、パラメータが付与されているか確認してください。



パラメータが付与された URL の例

`http://ドメインB/index.html?waxc=AAAAAAAAAAAAAAAAA.BBBBBB`

※ USERGRAM併用の場合は、waxc と ugx の2種類のパラメータが付与されます

`?waxc=AAAAAAAAAAAAAAAAA.BBBBBB&ugx=CCCCCCCCCCCCCCC.DDDDDD`

※ パラメータの値(AAA...,CCC...)は、実際にはデータ引き継ぎ用の文字列が付与されます

※ waxc と ugx の順番は逆でも問題ありません

【ご注意】 以下のような動作不具合により、計測精度が改善されなかったり、貴社サイトが正常に表示されない可能性があります。

リンク書き換え箇所の動作確認は必ず行ってください。

- ✓ 引き継ぎの実装に問題があり、引き継ぎ用のパラメータが振られない、または正常に遷移しない
- ✓ リンククリック後にリダイレクトを挟むため、最終的なドメイン B の流入先では引き継ぎ用のパラメータが落ちてしまう
- ✓ まれに想定しないパラメータで表示が崩れるサイトがあり、引き継ぎ用のパラメータが画面表示に影響してしまう

【設定方法2】

Googleタグマネージャで一括設定する

必要な作業の概要

Googleタグマネージャ (以下GTM) を利用して、別ドメインへ遷移するリンクに対し一括でデータ引き継ぎ処理を設定します。以下、4 ステップに分けて作業手順をご説明します。

<CV までの遷移図>



1

別ドメインへ遷移するページにGTMタグが設置されていることを確認する

- 流入から CV までの経路上で、別ドメインへと遷移する箇所を洗い出す
- 遷移前(ドメインA)のページにGTMタグが埋まっているか確認し、埋まっていない場合は設置する

2

WAタグが設置されていることを確認する

- 遷移前(ドメインA)と遷移先(ドメインB)の両方のページにウェブアンテナの計測タグが設置、もしくはGTM配信されていることを確認する
- 埋まっていない場合、遷移前・遷移先の両ページに計測タグを設置する

3

GTM上でデータ引き継ぎ処理を設定する

- GTMにてデータ引き継ぎ処理を設定する

4

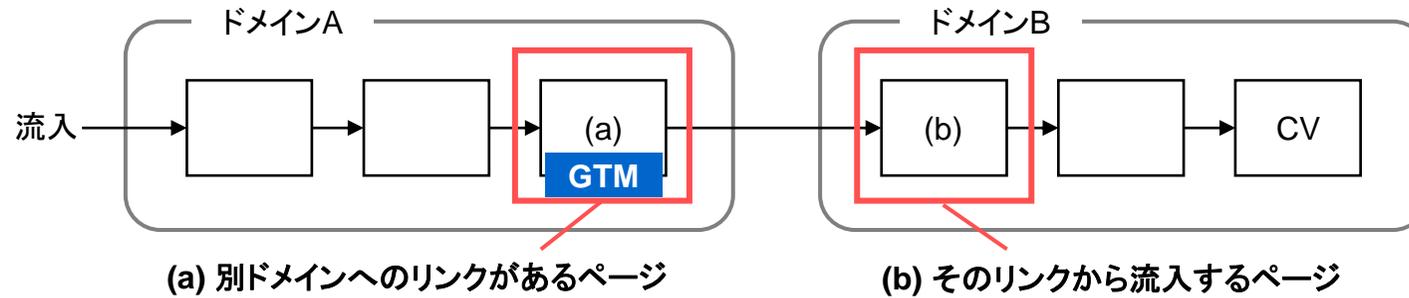
別ドメイン遷移の動作確認を行う

- 別ドメインへ遷移するリンクを実際にクリックして、パラメータが正しく付与されることを確認する

具体的な作業の手順(1/7)

1 別ドメインへ遷移するページにGTMタグが設置されていることを確認する

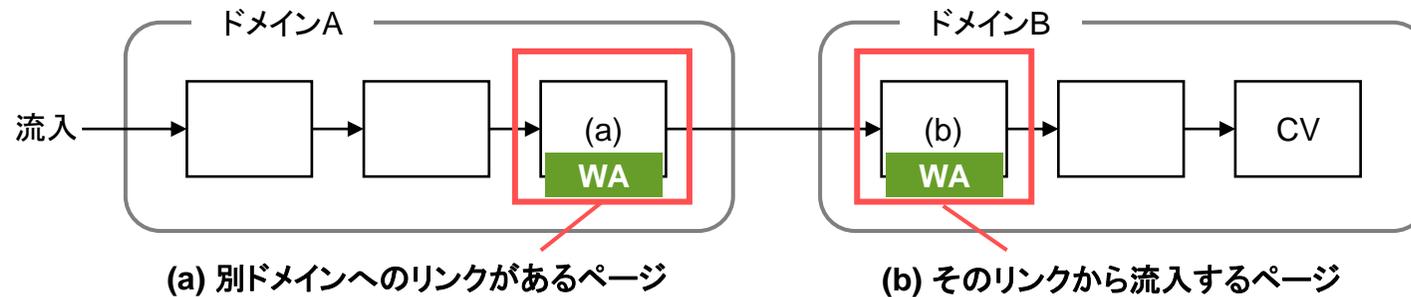
貴社サイトにて、流入から CV までの経路上で「(a) 別ドメインへのリンクがあるページ」と、「(b) そのリンクから流入するページ」を洗い出し、(a) のページにGTMタグが設置されていることを確認してください。



具体的な作業の手順(2/7)

2 WAタグが設置されていることを確認する

(a) (b) 各ページにウェブアンテナの計測タグ(入口ページタグ/コンバージョンページタグ)が設置、もしくはGTM配信されていることをご確認ください。USERGRAMを併用している場合、併せてUSERGRAMの計測タグの設置もご確認ください。



- ✓ 設置されている場合 ➡ **追加の対応は不要** です
- ✓ 設置されていない場合 ➡ ウェブアンテナの**入口ページタグ**を (a) (b) 各ページに設置してください

※ USERGRAM併用の場合は、USERGRAMの**共通タグ**を併せて設置してください

該当するページへの計測タグの設置が難しい場合、または計測の制約上設置を行っていない場合は、状況をお伺いした上で対応方法をご案内させていただきます。

お手数ですが、サポート窓口(p.37)までお問い合わせください。

具体的な作業の手順(3/7)

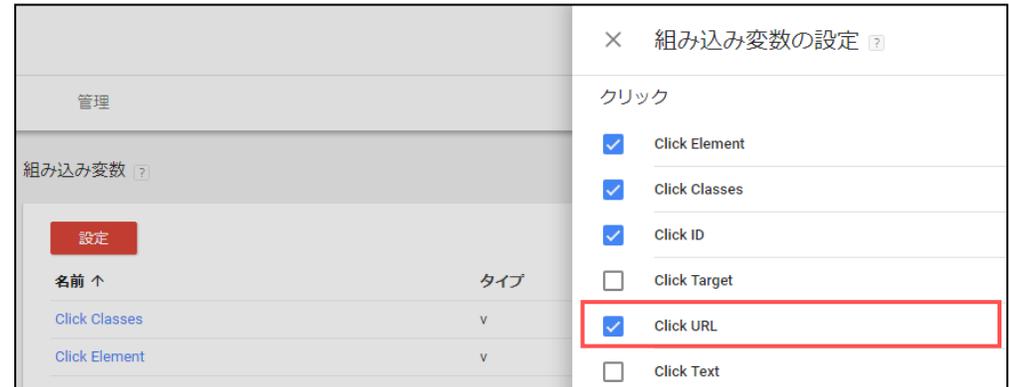
3 GTMにてデータ引き継ぎ処理を設定する

GTMにログインし、以下の手順でデータ引き継ぎ処理を設定してください。

【手順1】変数を作成する

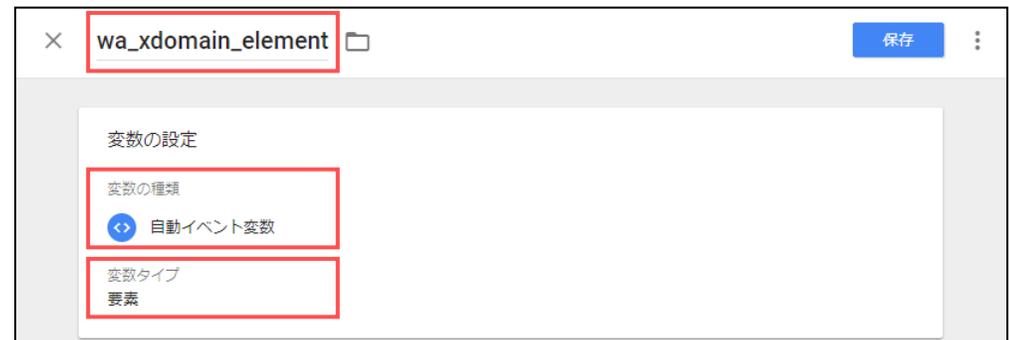
[変数] → [組み込み変数] → [設定] にて、「Click URL」にチェックをつけ有効化してください。

※ 既に有効化されている場合は作業不要です



次に、[変数] → [ユーザー定義変数] → [新規] にて、下記の自動イベント変数を新規登録してください。

項目	値
変数名	wa_xdomain_element
変数の種類	自動イベント変数
変数タイプ	要素



具体的な作業の手順(4/7)

【手順2】データ引き継ぎ用のタグを作成する

[タグ] → [新規] にて、下記のように設定し保存してください。

項目	値
タグ名	※ 任意の名前を入力してください (例: WAデータ引き継ぎ処理用スクリプト)
タグタイプ	カスタムHTML
HTML	※ 下記のコードを貼り付けてください



ウェブアンテナのみ利用

```
<script type="text/javascript">
if(typeof(_wa) == 'object'){
  {{wa_xdomain_element}}.href = _wa.link({{wa_xdomain_element}}.href);
}
</script>
```

ウェブアンテナ・USERGRAMを
併用

```
<script type="text/javascript">
if(typeof(_wa) == 'object'){
  {{wa_xdomain_element}}.href = _wa.link({{wa_xdomain_element}}.href);
}
if(typeof(usergram) == 'object'){
  {{wa_xdomain_element}}.href = usergram.link({{wa_xdomain_element}}.href);
}
</script>
```

具体的な作業の手順(5/7)

【手順3】データ引き継ぎ用のトリガーを作成する

[トリガー] → [新規] にて、下記のように設定し保存してください。

項目	値
トリガー名	※ 任意の名前を入力してください（例：WAデータ引き継ぎ処理用トリガー）
トリガーの種類	クリック・リンクのみ ✓ 「タグの配信を待つ」にチェック ✓ 「妥当性をチェック」にチェック
トリガーの有効化条件	「Page URL」「含む」「遷移前のドメイン」を順に入力
このトリガーの発生場所	「Click URL」「含む」「遷移後のドメイン」を順に入力

WAデータ引き継ぎ処理用トリガー (domain-a.com→domain-b.c...)

このワークスペースで変更されました 変更内容を表示 変更を破棄

トリガーの設定

トリガーの種類

- クリック・リンクのみ
- ✓ タグの配信を待つ
待ち時間の上限 2000 ミリ秒
- ✓ 妥当性をチェック

これらすべての条件が true の場合にこのトリガーを有効化

Page URL | 含む //domain-a.com

このトリガーの発生場所

Click URL | 含む //domain-b.com

保存

※「遷移前のドメイン」と「遷移後のドメイン」の組み合わせが複数ある場合は、組み合わせの数だけトリガーを作成してください(p.22 参照)

具体的な作業の手順(6/7)

【手順4】手順2で作成したタグに、手順3で作成したトリガーを設定する

[タグ]にて手順2で作成したタグを選択し、手順3で作成したトリガーを設定してください。

The screenshot shows a configuration window titled "トリガー" (Trigger). Under the "配信トリガー" (Distribution Trigger) section, there are three entries, each with a blue gear icon on the left and a minus sign on the right. The entries are separated by "または" (or) labels. The first entry is "WAデータ引き継ぎ処理用トリガー (xx.com→■■.jp) リンクのみ". The second entry is "WAデータ引き継ぎ処理用トリガー (■■.jp→▲▲.com) リンクのみ". The third entry is "WAデータ引き継ぎ処理用トリガー (●●●.com→▲▲.com) リンクのみ". At the bottom left of the window, there is a link that says "例外を追加" (Add exception).

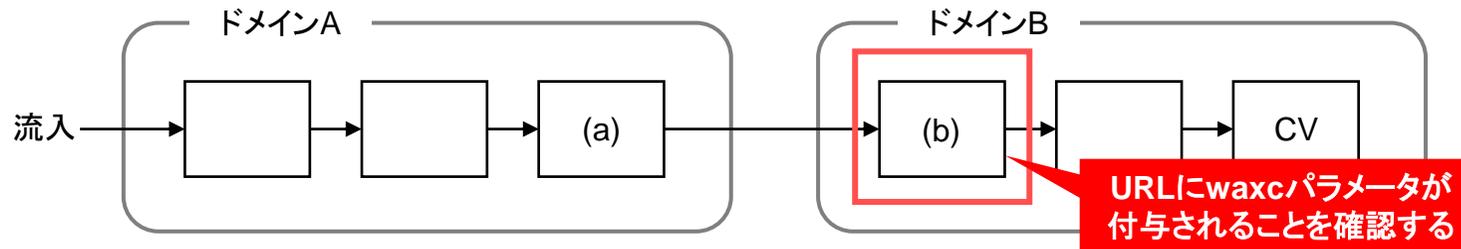
【手順5】設定を行ったバージョンを公開し、配信開始する

以上が設定完了しましたら、必要に応じてプレビュー状態で動作確認を行った後、新しいバージョンを公開しタグを配信開始してください。

※ 動作確認の方法は次ページをご覧ください

4 別ドメイン遷移の動作確認を行う

引き継ぎの設定を正しく行くと、Chrome/Safari/Firefox ブラウザからリンクをクリックした時に waxc というパラメータが自動付与されます。
引き継ぎ処理は上記ブラウザのみで動作しますので、それらのブラウザからリンクをクリックして、パラメータが付与されているか確認してください。



パラメータが付与された URL の例

```
http://ドメインB/index.html?waxc=AAAAAAAAAAAAAAAAA.BBBBBB
```

※ USERGRAM併用の場合は、waxc と ugx の2種類のパラメータが付与されます

```
?waxc=AAAAAAAAAAAAAAAAA.BBBBBB&ugx=CCCCCCCCCCCCCCC.DDDDDD
```

※ パラメータの値(AAA...,CCC...)は、実際にはデータ引き継ぎ用の文字列が付与されます

※ waxc と ugx の順番は逆でも問題ありません

【ご注意】 以下のような動作不具合により、計測精度が改善されなかったり、貴社サイトが正常に表示されない可能性があります。

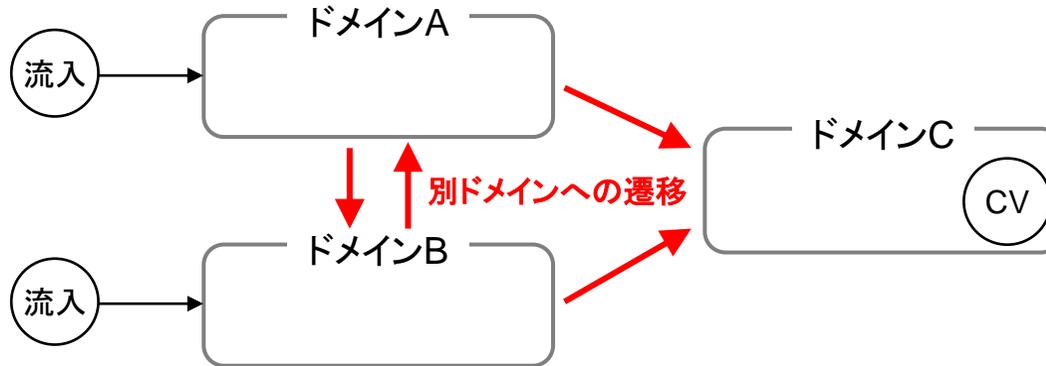
リンク書き換え箇所の動作確認は必ず行ってください。

- ✓ 引き継ぎの実装に問題があり、引き継ぎ用のパラメータが振られない、または正常に遷移しない
- ✓ リンククリック後にリダイレクトを挟むため、最終的なドメイン B の流入先では引き継ぎ用のパラメータが落ちてしまう
- ✓ まれに想定しないパラメータで表示が崩れるサイトがあり、引き継ぎ用のパラメータが画面表示に影響してしまう

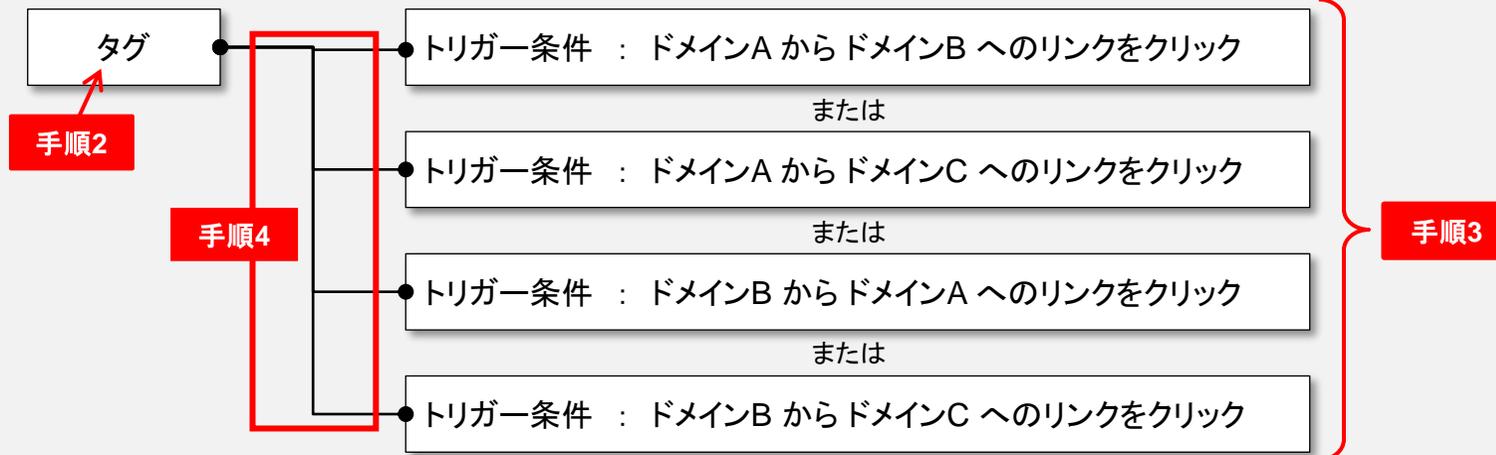
(参考) 別ドメインへの遷移パターンが複雑な場合のGTM設定イメージ

別ドメインへの遷移パターンが多数ある場合、GTM では遷移元と遷移先のドメインの組み合わせの数だけトリガーを作成し、データ引き継ぎ用のタグに設定してください。

遷移パターンが多数あるサイトの例



上記サイトに対する GTM 設定イメージ



本件に関してお困りの点がありましたら、ウェブアンテナ サポート窓口までご連絡ください。

ウェブアンテナ サポート窓口

営業時間： 午前10時～午後6時
(土日・祝日・年末年始等除く)

Email: wa_support@bebit.com

なお、基本的な使い方や用語の再確認には、ウェブアンテナ活用ノート (ヘルプサイト) もご活用ください。良くある質問や便利な使い方を多数掲載しております。



ウェブアンテナ活用ノート

<https://help.webantenna.info/>

よくあるご質問、便利な使い方、マーケティングコラムなどウェブアンテナの活用を支援する情報を発信しています。各種マニュアルもダウンロードいただけます。

株式会社ビービット
〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 10F
<http://www.bebit.co.jp/>